



新潟県  
十日町市  
・  
まつだい  
地産地消の会

一般社団法人  
里山プロジェクト  
奥平百合

一般社団法人 **里山プロジェクト** の仕事

- ① 地域おこし協力隊の雇用、サポート
- ② 中山間地直接支払制度等の事務委託
- ③ 学校給食の地産地消コーディネーター

### 十日町市 学校給食 地産地消コーディネーター

**H23年～**  
当時、地域おこし協力隊員であった複数里山PJスタッフで、中山間地の課題に対し、「耕作放棄地の対策」「高齢者の生きがいづくり」「地域内循環経済の後押し」「地産地消の推進」などを目指した活動が始まる。「東下組さわらび学校給食の会」「まつだい地産地消の会」を創設。支援。他に、里山PJの提案により、十日町市農林課が「種苗代補助」制度を創設。

**H29年～R2年度**  
新潟県中越震災復興基金（3年限）、十日町市より予算を頂き、「学校給食地産地消コーディネーター」を里山PJに設置。「まつだい地産地消の会」の支援も、行ってきた。

**R3年～**  
活動終了予定



市報とおかまち  
2020/11/10号  
学校給食の特集



東下組さわらび学校給食の会

じろばた（千手直売施設出荷者組合）

まつだい地産地消の会

深雪の里ファーム（中里）

## 給食へ納入 4つの 生産者団体

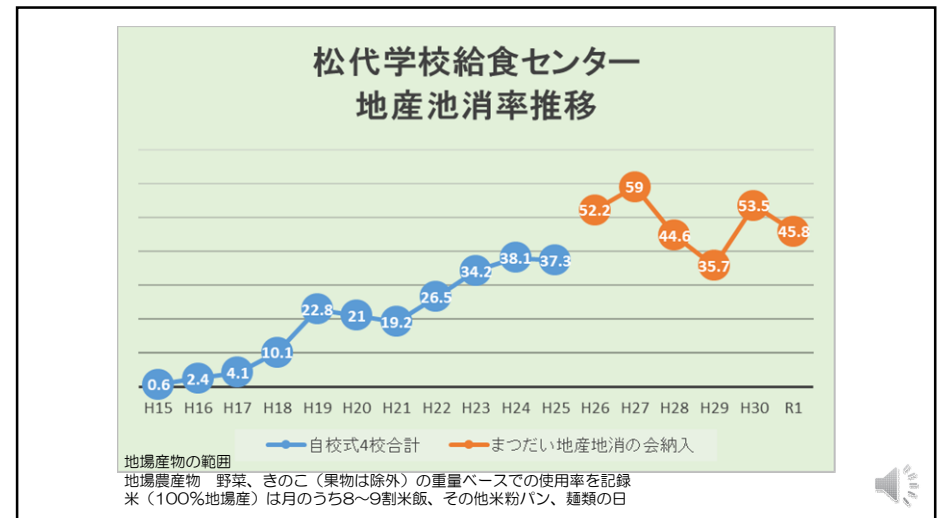
+  
R3~ 1 水沢地区

### 【提供施設】 松代学校給食センター（H26年稼働）

- ◆運営 センター長（十日町市）  
栄養教諭（新潟県）  
調理員（5人） 配送員（1人） 外部委託
- ◆提供先3校 十日町市立松代小学校（センター隣接）  
松代中学校  
まつのやま学園（小学部、中学部）
- ◆年間稼働日数 約190日
- ◆提供数 322食
- ◆給食費 小学校279円 中学校324円

※ 「まつだい地産地消の会」センター稼働と共に設立  
地場野菜を直納を開始。

### 松代学校給食センター概要





**まつだい地産地消の会  
7年目の転換点**

5軒の農家、1直売所が中心となる会

**まつだい  
地産地消の会  
&事務局の  
抱える課題**

- R3十日町市のサポート（事務局）が終了  
出荷体制の「再構築」の必要性
- 人事異動などで、  
地産地消が引き継がれない
- 生産者の高齢化
- 給食センターとの関わりがマンネリ化  
などなど

**まちむら交流きこう  
地産地消コーディネーター  
派遣申請**

課題の整理と解決策を求めて

令和2年11月 5日（木）	派遣1回目
令和2年12月11日（金）	派遣2回目
令和3年 2月18日（木）	派遣3回目

**【松代地産地消推進・体制再構築】** 里山プロジェクト 奥平百合  
2021/01/29 版

まつだい地産地消の会から、松代学校給食センターへの納入体制の再構築について

	これまで（H26～R2）	R3年度以降（希望）
価格	事務局（奥平）がこれまでの情報蓄積から決定	納入価格の再検討を行う
受注	奥平が里山PJ事務所で受付（FAX・メール）	奥平個人のメール（プリンターの確保） 給食メニューも同時共有（納入品種の検討の為）
受注調整	奥平が受注会議を招集、受注者名を記入して給食センターへ報告。受注会議時、受注できない野菜の報告も。	基本：奥平がこれまで通り行う予定  (前月納入分の支払い)
納入規格	都度確認	生産者が納入時、都度情報更新できるツール（アナログ：大きな紙）を検討、都度、生産者から出荷情報 基本となる表を作成、必要時改定

	これまで (H26~R2)	R3年度以降 (希望)
納入時 トラブル	当日対応、奥平、会長	前日納品出来れば、納入者に連絡、対処が容易い
会計	生産者が書く3枚綴りの納品書のうち、請求書部分をまとめて事務局(奥平)へ。取りまとめて、間違いがあれば納品書の差替え作成、請求書作成。	生産者が納品書と共に請求書をそれぞれ給食センターへ、事務局からは合計金額で請求書?
	生産者個人への配分は奥平が計算、配布	(生産者個人への配分は奥平が計算、配布)
交流 (情報交換)	奥平が窓口で生産者に連絡調整	月1受注会議時に、翌月以降の連絡事項を共有化
定例地産 地消会議	1年に1回の <b>交流給食</b> 時に同時開催 生産者、栄養士、調理員の意見交換があった	1学期の出荷が始まる前に、昨年度のふり返り、今年度期待されること、栽培予定など共有
	会発足当時 (H26,27) は各学期毎に、地産地消率の報告などが給食センターからあり、情報交換も行われていた。	2学期終わり、交流給食と情報交換会

## 課題の整理共有と再検討 地産地消コーディネーター派遣を受けて

### まつだい地産地消の会

- これまでの取組みのふり返り
- 問題点の洗い出し
- 分担の再確認、明確化

### まちむら交流きこう専門家派遣 (村上かほり先生)

- 専門家によるクリニック
- 具体的なアドバイス
- 他地域での取組み事例情報

### 記録

松代松之山地産地消会議

2021.02.18 (木) 09:45~11:30  
会十村町中田町松代五区 1階 中倉様家  
一般社団法人 産直のびろり

松代学校給食センターの地産地消推進会議 (2回目)

I. 会議の開催概要

給食センターへの地産地消導入の継続と、体制の再構築について。

II. 出席者

滋賀市農業公社 農産物直売センター 村上かほり様  
松代学校給食センター長 佐藤明美さん  
まつだい地産地消の会 会長 理事等、若井博子、岡田月子、片貝望  
(一社) 産直プロジェクト 真平百合まつだい地産地消の会事務局

III. 今後の地産地消導入の作業手順の確認

松代学校給食センター「納入の手引き」(仮表)の印刷検討。

IV. 今後の会合の定例化について

学校給食関係者による「松代松之山地産地消推進会議」と、毎月の「受注定例会議」

① 松代松之山地産地消推進会議 (仮) 年に2~3回 合意

↓

1. 主催者 (事務局) 松代学校給食センター 合意  
2. 場所 松代学校給食センター (若しくは小学校) 合意  
3. 開催日程 1回目 5月末、2回目 夏休み 7月下旬~8月  
毎学期一学期終わりの中旬に、事務局の幹事  
その他必要時 合意 (交流給食、検閲学も取り)

4. 参加者 松代学校給食センター長、栄養士、調理員  
生産者団体

5. 検討する内容

① 納入開始のすり合わせ  
② 栽培状況と、納入の見直し  
③ 新しい産地の確保、納入検討。

### 記録

松代松之山地産地消会議

2021.02.18 (木) 09:45~11:30  
会十村町中田町松代五区 1階 中倉様家  
一般社団法人 産直のびろり

② 受注定例会議 合意

1. 主催者 (事務局) まつだい地産地消の会 (事務局奥平)。  
※ 松代校舎前には、センター小学校で対面  
※ 月曜日の朝が都合がよい。

2. 場所 松代校舎前 合意  
(松代学校給食センター、又は小学校)

3. 開催日程 毎月20日頃 (発注書を受けて)

4. 参加者 (組織、個人) 生産者、事務局

5. 定例の内容

受注会議  
再来月以降の出荷見直しの作成  
受注書一覽、出荷見直しをその場でメール、  
2方へ送付  
原産地生 (農産物直売) + CCセンター長 宛  
栽培管理記録簿の確認  
請求書 (次分) 受取り、請求書受取の確認  
地産地消導入に關しての課題解決、  
新しい産地の確保、価格、納入検討。

## 地産地消の課題整理と継承 「納入の手引き」

「引き継がれない事」への対策としても

### 十日町市 学校給食への野菜納入の手引き

●本市の取り組みについて。  
十日町市では地産地消を推進しており、学校給食には十日町市産野菜を多く取り入れた、栄養バランスの取れた献立を行っています。  
市内各地域の出産者団体では、給食センターと連携し、安全安心に配慮した地産野菜を納入して頂いています。

●地産野菜出荷団体と市場について。  
東下郷：東下郷まわりの学校給食の会  
川内：千手庵内施設出荷組合「しほばた」  
秋代：まつどの地産地消の会  
中津：産者の産アール  
水沢：水沢地区農産物協議会  
市場：(株)南信青果

●出荷可能な期間  
給食各業務する期間  
1学期 4月7日頃～7月21日頃  
2学期 8月30日頃～12月24日頃  
3学期 1月6日頃～3月23日頃

#### 出荷の流れ

1. 「野菜生産者の見直し」の記入。
2. 出荷の依頼。
3. 出荷の手続き。
4. 納品。
5. 野菜代金のお支払い。

1. 「野菜生産者の見直し」の記入。  
「野菜生産者の見直し」には、発注金額に毎月から3ヶ月先までの予定額を分かる範囲で記入し、提出下さい。  
【P5】「野菜生産者の見直し」(記載例参照)。
2. 「納品管理記録簿」の記録について。  
●子供たちの健康を守る安全安心な給食のためには、農薬の正しい使用が絶対条件となります。用法を守り正しく投入して下さい。必ずしも、JAなどへ依頼をしてくる必要は、ありません。  
●給食へ出荷する予定の産期については、農業者の労務確保「納品管理記録簿」を記録保存してください。  
【P6】「納品管理記録簿の記載例参照」。
3. 出荷の調整・出荷情報。  
●天候等の事情等で生育の間に急激な変化があり、発注量に満たない場合、他の生産者さんと調整して下さい。調整が出来ない場合は、その旨を「給食センター」へお電話下さい。  
●いづれの出産でも、出荷がなくなりそうな場合は至急ご連絡ください。状況に応じて対応します。できる限り早めにご連絡下さい。(ご連絡までが望ましい)。

出荷情報  
●給食センター毎に、野菜出荷規格一覧があります。出荷準備にご活用下さい。  
また規格については、農業者と給食調理課との調整を行います。ご相談のある方は、給食センターまでご連絡下さい。

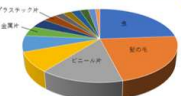
4. 出荷の手続き。  
●野菜の仕上は肥料用の水で洗い、不要な葉や根を取った上で、少量の場合は汚れないビニール袋、量のある時はコンテナや段ボール箱に入れて納入して下さい。  
●出荷時、「そば粉」「肥料」などが入っていない袋を使用しないで下さい。  
●出荷する野菜は必ず新鮮で、腐敗、傷みなどがない状態にしてください。  
●根菜類(ジャガイモ、玉ねぎ、にんじん)等ではサイズがそろったもの、サイズ別に分けて納品をお願いします。  
●特に冬場の産期は冬も1つ切った中を保管することなど、品質管理を徹底してください。特に腐敗防止は、出荷の前を徹底してください。  
●農産物の産期からカットされた野菜は納品はできません。  
●出荷量(キログラム換算)は、発注数量を納品届出(納品票)に記入して下さい。  
●出荷時

### 【異物混入の防止】 子どもたちへ安心安全を！

学校給食において、最も気を付けなければならない「異物混入」について、出荷までの関係ポイントをお知らせします。

#### 3つの異物 混入経路

① 食料由来の異物 ② 調理従事者が持ち込む異物 ③ 施設・設備・器具等による



食料由来の異物は多種多様で、納品されてきた段ボールにカットアライフ、あらゆる虫、虫の卵、発芽芽ロー、輪ゴム、ビニール片、  
乾物には、ホチキス、糸くず、という事例もありました。

【異物混入の防止】  
●クリップ、針金、などが製中の農作物に入らないよう注意する。  
【出荷時の注意事項】  
●納入物は封じにくいビニール袋に余裕を持って入れ、異物混入を防ぐ。  
●輪ゴムは使用しない。ビニール片も混入しない。  
●虫の毛はまきとめておく。掃き取りを行う。  
●空っぽの容器も持ち込む。他の食品のプラスチックなどが混入しない。  
●小袋、農薬などの袋は使用しない。  
●(アレルギーのある子どもにも)、重大事故につながる恐れがある。  
●大量の廃台はコンテナ、少量の場合は清潔なビニール袋、段ボール箱を使用。  
●賞状が多く含まれている、特約品(賞状)は別袋に入れてください。  
●カッター、納品袋に異物が多く見つかった場合、交換をお願いします。

5. 納品(各センター、学校、市場 ごとに異なります)。  
●納品は給食の当日、午前7時30分からの30分の間にお願いします。  
●野菜は、給食センターの検査室で受け取ります。  
●家族連れ、親などによる納品はできません。(要相談)。  
●納品時に、給食調理課の数量が状態を確認した上で受け取ります。  
●納品の誤、納品量を削減しないでください。  
給食業務に中止となった産期  
●学校側から派遣員など、様々な事情により給食が中止になる場合があります。その際は生産者に連絡し、情報共有して頂きます。

6. 代金のお支払い (P6参照)。  
●月末締めとし、1ヶ月分まとめて請求して頂き、各生産者へお支払い頂きます。  
●口座への入金は、おおよそ20日か月の月末締めとなります。

●お問い合わせ。  
その他、ご不明な点等がございましたら、下記までご連絡ください。  
P42-1326 新潟県十日町市北3-2-9-8  
給食センター  
TEL: 025-597-2377  
FAX: 025-597-2399

### 学校給食 野菜生産者の見直し

4月	5月	6月
生産者名	生産者名	生産者名
住所	住所	住所
電話番号	電話番号	電話番号
担当	担当	担当
備考	備考	備考

### 「農産物産出管理記録簿」

※産出された農産物の産出履歴を記録し、記録簿に記入してください。  
※産出された農産物の産出履歴を記録し、記録簿に記入してください。

品名	品名	品名	品名
豆苗	豆苗	豆苗	豆苗
ピーマン	ピーマン	ピーマン	ピーマン
ナス	ナス	ナス	ナス
トマト	トマト	トマト	トマト
ピーマン	ピーマン	ピーマン	ピーマン
ナス	ナス	ナス	ナス
トマト	トマト	トマト	トマト

※ 注意(使用禁止) ・アウトエアー肥料 ・オムロン水耕栽培 ・オムロン肥料

### 記入例

給食センターへの納品事例

- 納品の納品簿
- 納品簿を納品簿に納品票と一緒に
- 納品票を月末にまとめて給食センターへ
- 納品簿を月末にまとめて給食センターへ
- 納品簿を月末にまとめて給食センターへ

※ 数量、単位、合計金額など間違いないように記入してください。  
※ 数量、単位、合計金額など間違いないように記入してください。その上、正確な産出履歴を記録してください。

※ 当日使用しないものについては、使用日を入れて頂くことで、分かるようになります。

#### 【納品簿】月末締め記入例

新潟県十日町市北3-2-9-8  
給食センター  
TEL: 025-597-2377  
FAX: 025-597-2399

2月分計 56,560

### じゃがいも 納入目安

□ 新潟県産物出荷規格基準

2L : 180g~250g未満

L : 130g~180g未満

M : 100g~130g未満

S : 70g~100g未満

(十日町産産Cのみ90g~)

□ 注意点

- 品質、形状、色沢良好なもの、土砂をよく落とし、異品種は混ぜない。
- 日焼け、緑化、疔水、変形腫れのものを除く。

Mサイズの目安  
広さしやく100gの大きさ

2L 横径 8cm~ 180g~250g

L 横径 7cm~ 130g~180g

M 横径 6cm~ 100g~130g

S 横径 5cm~ 70g~100g

## 出荷の目安 実物大

にんじん、たまねぎ、さといも  
じゃがいも作成

### 「農産物栽培管理記録表」

農産物は平成31年2月20日現在の栽培管理で作成しています。  
産物内訳は変更された時点で最終の栽培管理を記録してください。

住所	は種日	月	日
生産者名	定植日	月	日
(生産者番号)			

作物名	キャベツ	収穫期間	月	日	日
品種名			月	日	日
作付面積	㎡				

1. 土づくり肥料散布量(上記の面積当たりの散布量)

品目	施用量(kg)	品目	施用量(kg)

2. 農薬防除履歴

農薬名(用途)	使用月日	使用濃度	使用量
ネゼンチン(殺菌剤)	1回	定植前 全面土壌混和	
スタークル(殺菌剤)	1回	定植時 穂穴土壌混和	
マラソン(殺虫剤)	1回目	2回目	備考
トレボン(殺虫剤)	1回目	2回目	備考
ザコニール1000(殺菌剤)	1回目	2回目	備考
ランマンフロアブル(殺菌剤)	1回目	2回目	備考

## 生産履歴

### 安心安全の推進

農業指定の栽培管理記録簿の導入  
引継ぎが決まりました。

#### IV. 今後の会合の定例化について

学校給食関係者による「松代松之山地産地消推進会議」と、毎月の「受注定例会議」。

① 松代松之山地産地消推進会議(案) 年に2~3回 合意

- 主催者(事務局) 松代学校給食センター 合意
- 場所 松代学校給食センター(若しくは小学校) 合意
- 開催日程
  - 1回目 5月末
  - 2回目 夏休み 7月下旬~8月
  - 冬休み 年度終りのふり返し、来年度の計画
  - その他必要時 合意(交流給食、畑見学も良い)
- 参加者 松代学校給食センター長、栄養士、調理員、生産者団体
- 検討する内容 地産物納入に関する問題解決
  - ① 納入規格のすり合わせ。
  - ② 栽培状況と、納入の見通しの共有
  - ③ 新しい食材の提案、納入検討。

【確認】委託の会社の方針として、行事には積極的に参加姿勢

### 【松代地産地消推進・体制再構築】

里山プロジェクト 奥平百合  
2021/03/15 版

まつだい地産地消の会から、松代学校給食センターへの納入体制の再構築について

	R3年度以降について	話し合いにより決定
価格	納入価格の再検討を始めており、引き続き行う	
受注	奥平個人宛のメールで行うこととする(FAXでは行わない) 給食メニューも同時に共有してほしい(希望)	
受注調整	月に一度の受注会議を、十日町市松代支所にて行う	
	情報の更新: 生産者が納入時、出荷情報を更新する「営業ツール」を作成	
納入規格	基本となる表を作成、必要時改定	

## 営業ツール

まつたい地産地消の会 2021			
月	日	提案	氏名
【おすすめ野菜情報】			
品目	出荷時期		メモ
	/	頃～	
	/	頃～	
	/	頃～	



	R3 年度以降について	話し合いにより決定
納入時 トラブル	当日対応、出荷者本人、会長の順に電話連絡 (前日納品が叶えば、事前に対処可能となる。引き続き検討)	
情報共有	連絡網を整備、共有済み	
会計	給食費は市会計化されており、5口座ほどであれば <b>直接支払可</b> その他の出荷者分は、事務局が引き続き配布する	
交流 (情報交換)	月1回の受注会議時に、翌月以降の連絡事項を共有 その他、給食の停止などについては、連絡網を活用	
<b>定例</b> <b>地産地消推進会議</b> (給食センターと出荷者)	①5月末 本格的になる納入前に、前年のふり返り、今後の見通しなど協議 ②夏休み この期間に始まる秋冬野菜の栽培状況の共有、出荷規格など協議	



## 【成果】

- 今回の取組みを受け、給食センター側に主体的な意識醸成ができたことが一番の成果であったと思います。このことが会議の定例化に結び付けました。
- 生産者側では、高齢化は避けられませんが、頑張ってきたことを客観的に評価頂いたことで、変化があっても前向きに取り組んで行く心づもりができた様子です。
- 重量作物のじゃがいもでは、アドバイス頂いたことから新たな品種の導入が決まりました。(十勝こがね)
- 「納入の手引き」を給食センターから発行して頂く準備ができました。



## 【課題】

- 地産地消の取組みには、継続的な対策が必要であると強く感じます。
- 一度構築された体制も、人の入替りがあります。都度、意義の再確認、これまでの取組みの共有、を続けることが必要そうです。
- 給食への地産地消がインフラとして当たり前になり、行政サイドのサポートが継続したものになる事が理想です。責任の所在が定まらず、「栽培管理記録簿」の扱いは宙に浮いています。
- 子供たちも、毎年入替ります。今後、一住民として、地域の子供たちへ変わらぬ「地産地消の給食」が届けられることが、次の目標です。



